

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県 下野市

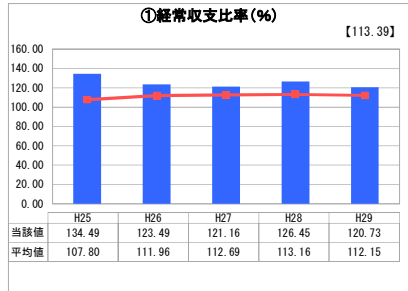
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.01	97.23	2,538	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
60,323	74.59	808.73
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
58,420	71.88	812.74

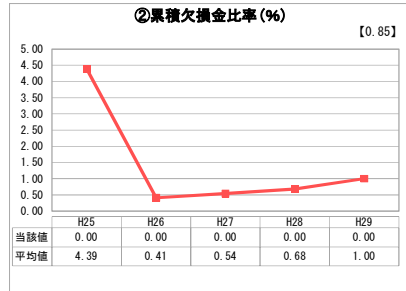
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

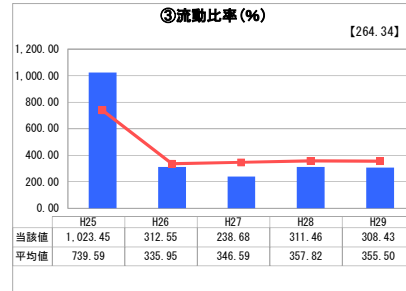
1. 経営の健全性・効率性



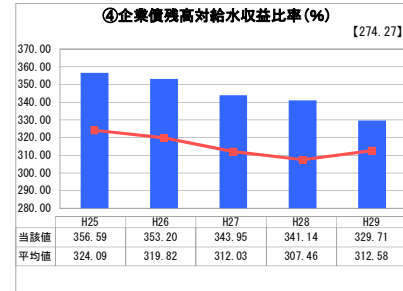
「経常損益」



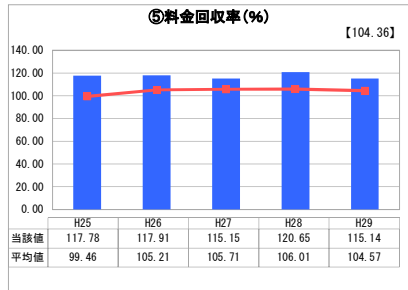
「累積欠損」



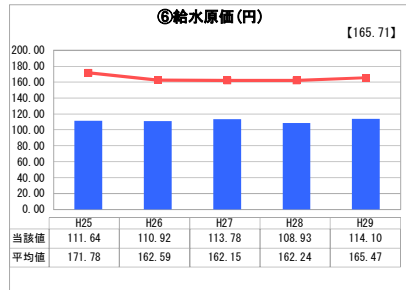
「支払能力」



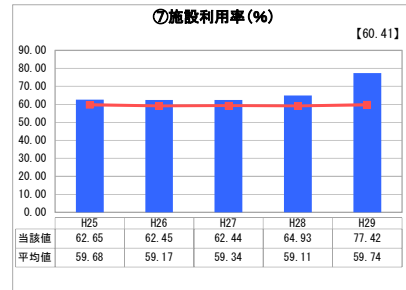
「債務残高」



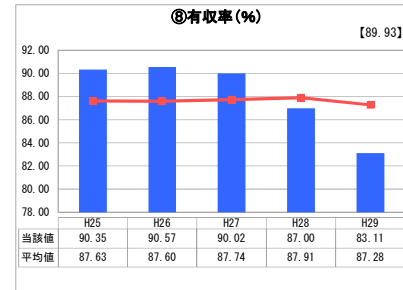
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

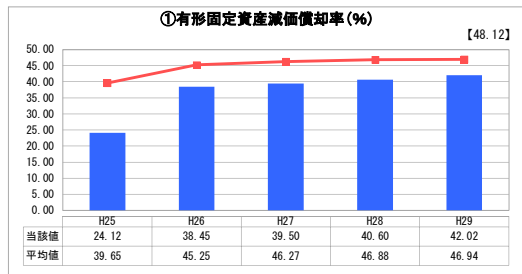
1. 経営の健全性・効率性について

- 1) 経常収支比率(左表1-①)
比較的、収益・費用とも安定しており、依然として高い比率にある。
- 2) 流動比率(左表1-③)
この指標は、短期的な債務に対する支払い能力を表す指標で、現金はおおむね横ばい状況にある。
- 3) 企業債残高対給水収益比率(左表1-④)
現在では類似団体の平均値を上回っているが、今後は計画的な企業債の償還により低下傾向を維持する。
- 4) 料金回収率(左表1-⑤)
昨年よりは回収率が低下しているが、類似団体平均より高い回収率であり、今後も安定的な回収率を目指す。
- 5) 給水原価(左表1-⑥)
類似団体や全国の平均値を大幅に下回っており、費用の効率性も非常に良い状況にある。
- 6) 施設利用率(左表1-⑦)
使用量は昨年度までとほぼ変化はないが、認可変更に伴い、一日配水能力が下がったため、利用率が上がっている。今後は、適正率65%程度を目指す。
- 7) 有収率(左表1-⑧)
漏水等による原因で有収率は低下したが、計画的な管路更新を行い、有収率の向上を目指す。

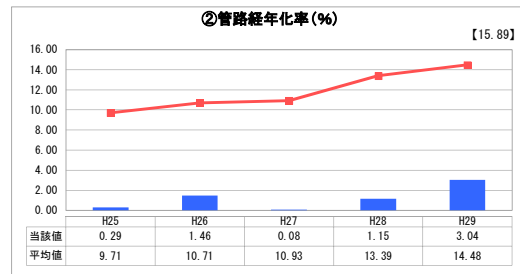
2. 老朽化の状況について

- 1) 有形固定資産減価償却率(左表2-①)
類似団体などより、法定耐用年数に近い資産が少ない状況にある。
- 2) 管路経年率(左表2-②)
率は低い、今後ますます管路の老朽化が進んでいく。
- 3) 管路更新率(左表2-③) 水道ビジョンの計画に基づいて適切に更新していく。

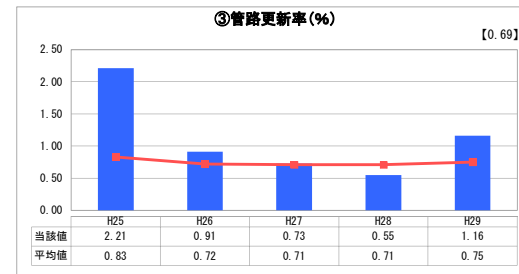
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

経営の健全性・効率性については、比較的高い水準で安定しており、経理の状況は比較的良好である。今後も、将来にわたって経営の健全性、効率性をさらに追求し、新水道ビジョンや経営戦略に沿って計画的に管路の更新を推進する。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。